

【特別支援学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立唐津特別支援学校
-----	--------------

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	保護者アンケートでは、すべての項目で平均3.5以上の評価であり、子どもの主体的な学びと育ちを支援する学校生活づくりを目指す本校の教育に関し、ご理解を得ていることと受け止められる。次年度は、生徒の自立と社会参加に向けた支援を進めるために関係機関等との連携を通じ、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすとともに、事業所の開拓等を行い、子どもの主体的な学びを意識した教育を、引き続き実践していくことが大切である。そのためには、カリキュラム・マネジメントの必要性和新学習指導要領の内容を十分に理解し、授業づくりの活性化を図る必要がある。一方で、働き方改革の観点から、会議の縮減や書類作成の改善等による業務軽減と職員の働き方に関する意識改革を強力に推進していく必要がある。
------------------	---

2 学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	① 児童生徒の自立と社会参加を目指した教育活動の推進に努める。 ② 児童生徒が毎日喜んで登校して来る、明るく楽しい学校づくりを推進する。 ③ 卒後の生活を見据え、一人一人に応じた進路指導の充実を努める。 ④ 職員研修を充実させ、教職員の専門性の維持・向上を図る。 ⑤ 県北部地区の特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。 ⑥ 職員の意識改革や学校の業務改善等を行い、働き方改革の推進に努める。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着 ○個別の指導計画に基づく指導・支援の充実を図るため、前期・後期ともに2日間以上の読み合わせ期間を設ける。 ○子どもの主体的な学びと育ちにつながる授業づくり～育成をめざす資質・能力の3つの柱を視点とした授業実践～	○個別の指導計画について、3.7以上の評価を目指す。 ○保護者アンケートにおける、学校の満足度に関する事項について、3.7以上の評価を目指す。	・読み合わせの際に、焦点を絞り効率よく行えるよう、事前に十分内容の検討を行う。 ・一人一人のニーズを多角的に検討するため、担任に加え適任となる関係者の参加を計画する。 ・本校の児童生徒にとって「志」とは「意欲・やる気・希望」だと読替え周知を図り、実践に生かす。 ・「育成をめざす資質・能力の3つの柱」についての研修会を行い、授業での活用を図る。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○仲間とともに活動することにより達成感を味わい、コミュニケーションを取り合う力を育むことができる行事や活動を、学期に2回以上設ける。 ○月に1回以上、児童生徒のトラブルやいじめに関する報告・連絡・相談の機会を設ける。	・生活単元学習や作業学習等において、児童生徒が自分の役割を果たす活動を盛り込む。 ・様々な人々とコミュニケーションを取り合う力を育むため、就業・施設体験や販売学習等を実施する。 ・全校朝礼、学部朝礼あるいは寄宿舎の舎務会等で、気にならぬことについての情報共有を図る。 ・昨年度および今年度のいじめ防止対策研修会の資料等をもとに、職員の意識の啓発を行う。	A	・個別の指導計画に自分の役割を果たす活動を盛り込むことができた。また、児童生徒のコミュニケーション能力を育むことについて、4段階評価のアンケートの平均で保護者3.5、職員3.2と高評価を得た。	A	・新型コロナウイルス感染症の影響で校外学習の実施が難しいと思っていたが、様々な感染防止対策を行い工夫しながら実施されているとの説明を受けて安心した。
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」 ○安全防災及び安全衛生に係る教育の充実	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○安全防災及び安全衛生に関するアンケート結果において、3.6以上の評価を目指す。	・登校時には、児童生徒や保護者に対し、笑顔添えて大きな声で挨拶することを掛ける。 ・学校の中では、児童生徒に対し積極的な挨拶や声かけをもち、明るく楽しい学校づくりに努める。 ・学期ごとに、交通安全指導や通学路点検を行う。単独通学生生に対しては、毎月通学指導を行う。 ・保護者に対しても、送迎時の安全運転及び校内徐行運転を呼び掛ける。	A	・アンケートで、いじめ防止に向けて児童生徒の心理面の把握や迅速な対応がほばできてきたと答えた職員が88%と高い割合であった。 ・1月にいじめ問題への対応に係る校内研修を実施した。	A	・いじめ防止に向けた日々の対応ができているとのこと、安心した。 ・いじめは本校でも起こりうることを念頭に置きながら、今後も子ども達を見てほしい。
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○センター的機能に関する職員のアンケート結果において、3.6以上の評価を目指す。	・全校朝礼、学部朝礼あるいは寄宿舎の舎務会等で、気にならぬことについての情報共有を図る。 ・昨年度および今年度のいじめ防止対策研修会の資料等をもとに、職員の意識の啓発を行う。	A	・登校時での挨拶の励行と、保護者と職員との情報共有ができた。 ・挨拶についてのアンケート(4段階評価)では、保護者の平均が3.6と、目標を達成できた。	A	・校内での車による事故が起きないように、徐行のポスターを貼ったり、道路にペインティングを施したりと、学校が様々な工夫をしていることが理解できた。 ・職員の間でも取組に感謝している。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・センター的機能の充実に向けて、職員の共通理解を図るために、月1回の資料提供を行う。 ・地域の関係機関との連携を密に行い、情報の共有化を図りながら、相談業務を行う。	B	・年間10回、単独通学生生に対して交通安全指導や通学路の安全確認を実施できた。 ・校内を通行する車に対して、徐行を促す標識を提示したり、路面にペインティングを施したりして安全を確保した。	A	・校外研修会への参加は難しい部分もあり、職員アンケートの結果は3.1であったが、校内研修や学部研に力を入れた。 ・職員の障害に応じた専門的な指導・支援についての保護者アンケートの結果は3.7と、目標値以上であった。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○進路指導	○一人一人に即した進路指導の充実	○保護者アンケートにおける、児童生徒及び保護者のニーズに応じた進路指導に関する事項について、3.5以上の評価を目指す。	・保護者対象の進路学習会を年間3回実施する。 ・事業所情報、掲示物、配布物など、可視化した資料の提供を行う。 ・地域の理解・啓発と、事業所開拓を進める。
○教職員の専門性の向上	○カリキュラム・マネジメントの推進と新学習指導要領の視点の踏まえた授業実践	○自らの専門性を向上させ教育実践に生かすことに関する職員の評価3.2以上、障害に応じた専門的な指導・支援に関する保護者の評価3.5以上を目指す。	・定期的な研修会での意識改革を図り、個人研修の日やパーソナルタイムにより時間を確保する。 ・業務改革として、書類作成の合理化と効率的な会議の実施に重点を置いた改善を図る。	A	・毎月2回程度(年間で19回)の定時退勤日を実施できた。また、支援計画の見直しを行った。 ・業務改革によっての職員のアンケート(4段階評価)では、平均2.6の評価に留まった。	A	・様々な障害のある子ども達が、それぞれの学校でみんなと一緒に楽しく学ぶことができるように、今後も地域の特別支援教育の核として地域に貢献してほしい。 ・先生方の元気がない子ども達が不安に感じたり、学ぶ意欲が低下したりするのを、休めるときはしっかり休んで元気な姿を子ども達に見せてほしい。

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・保護者アンケート(4段階評価)では、すべての項目で平均3.5以上の評価であり、特に、「お子様を本校に通わせてよかったと思うか」という問いに対しては、平均3.9(「そう思う」(89.7%)「少し思う」(9.4%))であった。これは、子どもの主体的な学びと育ちを支援する学校生活づくりを目指す本校の教育に関し、ご理解を得ていることと受け止められる。 ・職員アンケート(4段階評価)では、朝の登校での挨拶の励行や緊急事態を想定した各種訓練の実施、新型コロナウイルス感染症への対応についての自己評価は高く、研究主題の視点での授業実践や働き方改革の推進についての自己評価は低い結果であった。特に、「教職員の働き方改革の推進」については、アンケートの平均が2.6で、働き方改革を意識した業務の効率化と改善は未だ十分とは言えない。 ・こうした結果を踏まえ、次年度は、育成を目指す資質・能力の3つの柱について、更に研究を深め子どもの主体的な学びを意識した教育を、引き続き実践していくことが大切である。そのためには、カリキュラム・マネジメントの必要性和新学習指導要領の内容を十分に理解し、授業づくりの活性化を図る必要がある。一方で、働き方改革の観点から個別の指導計画の様式の改訂を行ってきたが、来年度は、会議の縮減や書類作成の改善等による業務軽減を更に推進していく必要がある。
----------------	--